

第 1 回 新大空港構想有識者会議 議事概要

【日 時】令和 5 年（2023 年）6 月 7 日（水）午前 9 時～午前 10 時 30 分

【場 所】熊本県庁 行政棟本館 5 階 審議会室

【出席者】

	氏名	役職等	備考
有識者会議委員	飯島 彰己	三井物産株式会社顧問	
	石原 進	九州旅客鉄道株式会社特別顧問	
	倉富 純男	西日本鉄道株式会社代表取締役会長、 (一社)九州経済連合会会長	
	永野 芳宣	九州産業大学特命教授	
	新浪 剛史	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長、経済同友会代表幹事	オンライン参加
	坂東 真理子	昭和女子大学 総長	オンライン参加
	東 哲郎	Rapidus 株式会社 取締役会長	
	県側	蒲島 郁夫	熊本県知事
木村 敬		熊本県副知事	

※出席者敬称略

【議事要旨】

1 知事挨拶【蒲島知事】

- ・ 本日は、お忙しい中、有識者会議に御出席いただき感謝する。
- ・ 知事就任以来、阿蘇くまもと空港とその周辺地域を一体のものとして捉え、空港周辺地域の活性化と更なる発展を目指す、大空港構想の実現に取り組んできた。
- ・ 平成 28 年の熊本地震後には、阿蘇くまもと空港を「創造的復興のシンボル」として「大空港構想 Next Stage」を策定し、様々な施策を展開してきた。
- ・ 本年 3 月には、阿蘇くまもと空港の新旅客ターミナルビルが開業し、今後、世界と地域に開かれた九州のセントラル空港の役割を担っていくものと期待している。

- ・ そうした中、世界的半導体企業である台湾のTSMCの熊本進出が決定した。県としても、これを契機に県内産業の振興と県経済全体の成長を見据えた「くまもと半導体産業推進ビジョン」を策定したところである。
- ・ また、空港周辺地域では、テクノロジーサーチャークを中心に、食やスマート農業を含むライフサイエンス分野における新産業の創出を目指すUXプロジェクトを推進している。昨年10月にはその拠点となるPre-UXイノベーションハブを開設し、持続的にビジネスが生まれるエコシステムの形成を進めている。
- ・ こうした空港周辺地域のめまぐるしい環境の変化を追い風に、空港機能の強化はもとより、将来の空港周辺地域の企業集積やまちづくりなど、新たな熊本の将来像を描くチャンスであると考えている。
- ・ 本日の会議では、委員の皆様から、豊富な知見に基づく長期的かつ大所高所からの御意見をいただきたい。御意見を踏まえ、今後、新たな熊本の将来像を見据えた構想策定を進めて参りたいと思う。
- ・ どうか、忌憚のない御意見をよろしく願います。

2 委員紹介

(委員紹介)

3 座長選出

飯島委員を座長に選出

4 議事

(1) 阿蘇くまもと空港の機能強化について

(2) 空港周辺地域の企業集積とまちづくりについて

※(1)及び(2)について、事務局から資料のとおり一括で説明

5 意見交換

【坂東委員】

(事前収録コメントの前に一言)

- ・ 地域の豊かさ、あるいは国の豊かさ、地球全体の豊かさとそこで働く人の幸せを作り出す。これが創造的復興だと思うのでぜひよろしく願います。事前収録時に申し上げた内容は大変狭い具体的な提言になってしまっているが、この全体の流れの中での意見だと思っていただきたい。どうぞよろしく願います。

(用務の都合により御退出。以下コメントは事前収録したもの)

- ・ 新空港はこれからの熊本にとって大きな起爆剤になると思うが、最初に熊本を訪れる人が経験する空港にぜひビジネスフレンドリーな機能を付け加えていただきたいと思う。
- ・ 特に新しい熊本空港でお願いしたいのは、国内外のビジネス客の方たちが往来しやすいような機能を充実させるということである。まず、入国審査については、海外では、エコノミーとビジネスではレーンが違い、ビジネス客は長い列に並ばずに通過できるというのが普通である。ぜひ、日本でもそのような入国審査の形式にしていきたいと思う。また、乗り継ぎの場合のラウンジについては、インターネット環境はもちろんとし、シャワー室などの設備やいろいろなサービスが利用できるように、コンシェルジュが控えていてサポートしてくれるというようなことが必要だと思う。
- ・ 大変気がかりなのが、空港と熊本市内あるいはビジネスとのアクセスである。アクセス鉄道ができるにはどんなに短くても10年はかかると言われていて、とても心配している。ぜひ危機感を持って、ここで時間を無駄にはしてはいけないという強い意志で臨んでいただきたいが、それでも10年かかるといふことであれば、その間に、例えば、既存の道路を1車線、農道レベルでもいいから、他の車が入らないような特別な規制をして、空港からTSMCのまでのルートを確保するなど工夫して欲しい。もちろん、技術的に言えば、空飛ぶ車とか、あるいはドローンとかっていうようなこともあり得るかもしれないが、ぜひ、ソフトで、できるだけ早く、空港から到達することができるような規制などソフト面で対応をしていただきたいということをお願いする。
- ・ 半導体で言えば、軽くて、カサが少なく、しかも高価なので、空港による物流施設というのもこれからの発展のためにとっても重要だと思うし、いろいろな集積ができることを期待している。
- ・ まちづくりについては、クオリティタウンという方向をぜひお願いしたいと思う。ビジネスの方たちが単身でおいでになるのではなしに、家族で住めるようなまちにしていきたいと希望する。エグゼクティブの方、エキスパートの方、高度専門職の方たちが気持ちよく居住するためには、大きな住宅が不可欠だと思う。日本のマンションだと70~80平米というのが多いが、それでは単身者向けである。家族向けであれば200平米、あるいはそういうマンションが無ければ、古い木造住宅でも大きな家であれば、水回りや冷暖房などの改修を行えば、快適な住居になるのではないかと思うので、ぜひ、クオリティの高い住居を提供していただきたいと思う。
- ・ 家族でおいでになる場合は、特に配偶者の方たちが、熊本に来ることによってキャリアが中断することがないように、熊本にいる間も、例えば、大学での客員研究員、非常勤講師、あるいは中学校高校での時間講師など、いろいろな形で自分たちのキャリアにとってプラスの経験ができるということが望ましいと思う。そのためには、いきなり日本でそうした就業チャンスを探すのはとても難しいと思うので、これも、

キャリアコンシェルジュのような仕組みが必要ではないかと思う。

- ・ お子さん達の教育について、これは本当に重要である。レベルの高いインターナショナルスクールをぜひ作っていただきたいと思う。単に英語で授業が受けられるだけではなく、インターナショナルバカロレアであるとかケンブリッジプラスであるとか、世界基準の認証をクリアするような、レベルの高いインターナショナルスクールを作るといのがこのクオリティタウンの上で不可欠な要素だと思う。ぜひそうした方たちが、定住をする、中長期的に気持ちよく住むことができるような環境をまちづくりの基本にしていきたいと思いますと思う。

【石原委員】

- ・ お手元に資料を1枚用意している。こちらで簡単にお話させていただきたい。
- ・ 熊本県のGDPは平成10年以降、ほぼ横ばいで25年間ほとんど成長してない。TSMCの進出は熊本県浮揚の2度とないチャンスである。この機会を最大限に生かして、「九州の将来を牽引する、熊本独自のビジョン」を作り、その実現に取り組むということだと思う。
- ・ そのためには「①半導体のサプライチェーンの強靱化を核とした持続的な成長、②食料の安全保障エコシステムの確立、③産学連携の先端技術研究開発拠点化（R&D拠点化）の推進。例えばバイオとか生命科学とか環境あるいは、今、半導体技術の大きな変わり目だという話を聞いているので、最先端の半導体の研究。④より早くスムーズな交通物流への取り組み」の4点の推進を基軸としたら良い。
- ・ 本日は、④にフォーカスして話をさせていただく。これは、極めて重要な課題だと思っている。熊本市中心部の交通渋滞は政令市の中で最悪という話が先ほどもあった。鉄道については、現在60分かかるが、それを大津から空港まで延長し、40分にする。
- ・ 鉄道は二次交通アクセスが重要。原水駅を視察した。非常に立派なバスターミナルができていますが、積み残し（乗り切らない乗客）が出ているようなので、すぐに対応すべきである。
- ・ 地元バス会社とJRの交通系カードの相互利用について。現在SUGOCAは両方使えるが、その逆はできない。VISAタッチやQRコード決済などの導入も検討してはどうか。
- ・ 豊肥線の増便・増設の検討も必要である。
- ・ 道路については当然整備しなければならない。中九州横断道路について、合志から西環状というところまでが早くできたらいい。また、交差点の立体交差化を考える必要がある。
- ・ 有効なバス路線の開発。例えば光の森からセミコンパーク行バスの新設。
- ・ 都市計画について。計画が遅れると虫食いになり、渋滞の元になるので、関係自治体は都市計画を急ぐべき。

- ・ M a a Sについて。これは公共交通の利用促進だけではなく、環境や高齢者の問題に直結してくるので、ぜひ取り組んだ方がいい。また、公共交通の利用促進は熊本に最も欠けていることなので、週2回は公共交通利用の日にするなどを検討したらいかがか。
- ・ 空港アクセス鉄道の新設と並行したまちづくりについて。空港ビルは立派にでき上がったが、空港と周辺地域を一体としたまちづくりを考えることが必要。ショッピングセンター、ホテル、アミューズメント施設、温浴施設など、空港周辺に越してきた台湾の方も便利で楽しめるエリアにしたい。また、地域再生道路というのがあるようで、いい道路だがあまり使われてないという話も聞いたので、活用を考えてはどうか。
- ・ UXプロジェクトの拠点と空港までの移動について。レベルVの自動運転をここで試しにやってみたらどうか。話題提供になる。
- ・ 空港の活性化・利用者増について。熊本空港の利用時間は7時半から21時半である。他の九州の空港でもこれと同じところは宮崎空港しかない。前後を延長して、6時半から22時半までにできないか。空港のクオリティの問題として極めて大事だと思う。また、羽田便の増便は、旅客の利便性向上と貨物輸送の点から更に取り組みたい。国際線については、台北線は就航予定であるが、高雄、香港、上海線もぜひ早く実現した方がいい。
- ・ これらを実現するには、相当の予算が必要になるものもあり、政府の支援を受ける努力をしなければならないが、各県、例えば福岡県では特区の指定により、規制緩和や財政的な支援を受けているので、当該地域についても「半導体産業戦略特区(仮称)」指定による政府の支援をお願いすることも検討してほしい。

【倉富委員】

- ・ この有識者会議に当たって、空港周辺等を一度見させていただいた。それから、事前に熊本県からもレクを受けた。本日は、九州全体という視点で、少し意見を述べさせていただきたい。
- ・ こうした構想を進めていくにあたっては、やはり一番今追い風なのは、シリコンアイランド九州という切り口。これが強みなので、これを全面的に押し出していくことだろう。
- ・ そこで、人材が必要であり、逆に言うと人材が集まってくるということである。それも熊本だけではなく、九州全体のロケーションを生かして人材を集め、そして研究者など人が交わっていく中心に、熊本空港周辺、あるいは熊本空港を位置づけるというのが一番だろうと思っている。
- ・ 今日は、東会長もお見えになっているが、恐らく北海道から見たときの、九州の優位性というのは、相当私はあると思っている。今回のTSMCの進出を契機として、大学間や高専間の連携をスピーディーに進めている。この強みを生かすべき。

- ・ そのためにはインフラをしっかりと整備していくことが大事だが、整備には時間を要する。そこで、今あるインフラ（高速道路や新幹線）を生かすために、ソフト面でいろんな知恵を出すことが必要である。極端に言うと、研究者やその家族に新幹線乗り放題のパスを渡して福岡や鹿児島に住んでもらってもいいのではないか。そうして人の行き来が行われることで、熊本で科学者人材の方々が交わることによって、化学反応を起こしていく、その中から新しい研究開発が進んでいく。半導体産業推進ビジョンの話もこうしたことで、差別化していくことによって初めて、熊本県が九州の中で牽引役になるし、九州自体が日本を変えていくことに繋がっていくのではないかと思う。
- ・ 先だって、官邸で（国内投資拡大のための）官民連携フォーラムが開催された。この中で岸田首相から、「九州の半導体投資、これは実際に好循環を生み出している。こういった事例を、日本で横展開していきたい」というような激励の言葉があったが、まさにそうだと思う。熊本だけではなく、九州全体が一緒になってやっていくという流れになっているし、ソニーを始め、これを契機に設備投資も含め、人材も連携していこうと。それから、熊本県だけではなく、福岡県、佐賀県、長崎県、こういったところが一緒になってシリコンアイランド九州を作っていこうという機運がある。これは強みである。そういう連携の場を、熊本空港のみならず、熊本駅周辺も含めて、いろんなインフラを生かしながらやっていく。これによって、全循環というか、九州を引っ張る熊本ということになると思うし、全国にそれを示すことになっていくと思う。
- ・ 産業集積も一つ大きな柱であるが、もう一つの柱は観光である。インバウンドも動き出してきた。熊本空港自体の活用もあるが、福岡空港や、鹿児島空港、あるいは長崎空港、こういった空港とのインバウンドの連携を熊本が先頭となって引っ張っていくことによって、行きはいろんな空港から来ても、帰りは熊本からであるとか、逆でもいいと思う。いずれにしても、熊本空港が活性化していくことに繋がると思う。
- ・ 今度、関西万博で空飛ぶ車、eVTOL的な話かと思うが、そういったものの実証に入っていく話がある。熊本もそういった研究面での先頭を走ってもらえば、恐らく100キロ圏内で九州の各地へ行けるということであつたので、熊本空港自身が観光面でのインとアウトの中心になっていくことができると思う。空港自体の海外からの便数は、ビジネス需要がないとなかなか定期路線は難しいと思うが、産業のインフラができて、人が行き交うようになってくることによって、マーケットがしっかりできるわけだから、これを生かしながらやっていく。そして観光面にもつながっていく。
- ・ 時間はかかるかもしれないから、九州全体との連携、その中で熊本の存在を高めていくというのが一番大事なことと考える。現在の資料もまとまっているが、そういう視点があるといいのかなというのが感想である。九州全体で熊本が引っ張っていく、あるいは熊本と一緒にやっていくというのが、私の思いである。

【永野委員】

- ・ 先ず2つの前提で意見を述べたい。
- ・ 第一は「共感性」ということである。昨日、九州経済連合会の総会で、蒲島知事がオンラインで基調演説をされた。その中で、九州全体で一緒にやっていくには、「共感性」即ち、「各県の枠を超えたシンパシーがとても必要だ」というお話をされた。九州が一つになって共創していくため非常に重要な事である。第二は、日本は資源のない国だという認識。その21世紀の基礎資源が、熊本に来たという事である。この二つの前提で、私の思いを申し上げたい。
- ・ 50年前、20世紀産業革命の基礎資源である「石油」が無いわが国にオイルショックがあった。当時、田中角栄首相は石油争奪戦争を止め、逆に砂漠の中東産油国のそれぞれの国の文化と文明に合った緑の街づくりをした。それによって、日本に石油が安定的に供給してもらえるような状態になり、それが今も続いている。私は、このことを思い起こして貰いたいと思う。何故かと言えば、今回は逆に、21世紀産業革命の基礎資源と言われる「シリコン半導体の装置産業」を、台湾のTSMCを、全くそうした資源の無いこの国に持ってきてくれたのである。この意義の大きさを是非考えて貰いたい。
- ・ 蒲島知事は、今からもう10年ぐらい前から、日本にシリコンアイランド、半導体の基地を作ろうということを目指している。その延長線上で考えれば、ようやく蒲島イズムが実現したと私は考えている。
- ・ 先程述べたように、熊本に進出して来たTSMCは、ファンドリーという装置産業で、九州各県だけでなく全国に半導体事業者がいられるし、その半導体を使うユーザーの方や生産者の方も沢山いられる。もちろん、地元の熊本にも東京エレクトロンやソニーやデンソー等を含め多くのユーザーがいる。だが、ユーザーからの委託を受けて、受託製造を引き受けるファンドリーを使わないとチップは創れない。その巨大な装置産業が、日本の歴史上初めて熊本に出来た。
- ・ 当然ながら、この半導体装置を九州全体で使うという、地産地消の考えが必要だと思う。何故なら、半導体の生産には電力と水を大量に使うので、特に脱炭素と省力化のために、熊本のためではなく、九州全体のために「共創する価値観」で、このファンドリーを使うということで進めていく必要がある。
- ・ そのためには、熊本にはこれからいろんな国から半導体の材料が運ばれてくる。これは技術と半導体のウエハーが来るだけではなく、人が来る。要するに21世紀の産業革命の基礎に成る事業を育てる人たちである。だから、この基礎事業を維持発展し育てる人創りを自分たちでもやらねばならない。それが、とても重要である。
- ・ そのためには、そういう人たちのための、そしてそういう多くの人たちと交流するための「日本の文化・文明を活かした新たな街」が必要ではないかと思う。20世紀の石油資源は、遠い中東などの国々に有り、そうした国々の文明文化を生かした緑の街々を創った。だが今度は自分の国に21世紀の資源を持って来て呉れるのだから、自分の文明文化を活かさなければ意味が無い。一言で言うと「半導体城下町」を作

るということが極めて重要じゃないかなと考える次第である。

- ・ それには、九州全体もそうであるが、日本全体の協力や海外の協力が必要であり、そういう人たちが満足するような革命的な新しい街づくりをすることが、非常に重要じゃないかなと私は考えている。これから提言をまとめるに当たって、飯島座長にはこうした街づくりを、是非やっていくということをお願いしたい。
- ・ 空港も10年先ぐらいただと、未だ私も生きていて今よりもっと立派になった姿を見られるかもしれないが、50年、100年先までにととなると全く不可能である。とりあえずは、目の前に立派な街が在るといようなものを、いろいろな人が来た時、「おー凄いな」と感動させ「共感の輪」の広がりを見せることが必要である。此処に来た人が、是非住んでみたいと思うような、そういう共感性（シンパシー）が発信出来る街づくりが必要で在る。
- ・ 名古屋にセントレア空港があるが、あそこは熊本と違って、空港から外に出ると直ぐ100店ほどのレストランやショッピング施設がある。そうしたものが、熊本空港には、欲しい。ただ、残念ながら名古屋セントレアにはホテルがない。ホテルは、約50分かけて名古屋の市内に行かないと無いのでそこがウイークポイントだ。もちろん、温泉は無い。
- ・ 是非空港を出ると、目の前にいろんなショッピングモールがあると同時に、立派な温泉ホテルもあり、それも、超一級のホテルだといようなものを、描いていただくとありがたいなと思っている。

【東委員】

- ・ 今回は、この新大空港構想という名のもとに、この九州を新生シリコンアイランドという形で位置付けて、より広範な形で発展を期するということだと思っているが、先ほど石原委員がおっしゃったが、実は熊本県にはソニーや東京エレクトロンなど、いわゆる作っているものにおいてはダントツの世界一の製品を作っている企業が立地している。今回TSMCが進出するが、これもダントツの世界一と、そういう意味合いで言うと、世界でも有数の企業が集まってきているということである。これは少し大きく見ると、地政学的な観点もあるかと思うが、やはりこの九州に、アジアの人たちが相当集まってくる、あるいは今後そういう地域にしなくちゃいけないと思う。そのためのインフラを整備しなければならないということで、今回の構想は非常に有意義だと考えている。
- ・ 先ほどちょっと気になったのは、熊本県のGDPは平成10年以降横ばいであると。要するに世界一の企業がかなりの程度集まっているにもかかわらず、なぜGDPは横ばいなのかというところが重要な点かと思う。それを考えると、やはりこの半導体を使う側、ライフサイエンスっていう言葉も出てきたが、そういう半導体を使って製品ができる、それが付加価値として、日本にも、世界にも、またこの地域にも、

売られていくというような循環ができると、相当GDPの方も成長していくのではないかと思っている。

- ・ 九州だけではなく、日本全体がそうであるが、やはり最終製品というアプリケーションに関わるような、価値の高いものが生まれてない。大体がコピーというか、ものまねのようなものが多くて、日本特有のもので、付加価値の高いものが生まれてないということもあって、なかなかGDPも上がってないということがあると思う。今回こういう形で、UXというのも取り上げてやっていくという構想であるから、是非ともこういう面を強くしていただきたい。
- ・ 熊本をどのようなまち、あるいはアイランドにしていくのかを考えたときに、3つのキーワードがあるのではないか。1つはインテリジェンス。これは大学など知識を集約するというだけでなく、新しい付加価値を生み出してくるそういう産業があるというような、いわゆるスマートシティに近いような、インテリジェンスという意味で考えていただけたら。もう1つのキーワードはグリーン。これは熊本には半導体だけではなく、農業も共生しているというのもグリーンということにおいて非常に強い特徴的であるし、さらに産業自体がグリーンを目指さなければいけないという二つの意味である。3つ目がセーフティいわゆる安全。先ほど五つの安全保障というように知事の方から説明があったが、こういうインテリジェンス、グリーン、セーフティというものが集結したアイランドであるというようなイメージが出てくると、アジアの中で際立った、世界有数のアイランドになっていくというようなイメージがするんじゃないかなと思う。

【新浪委員】

- ・ 4点ほどお話をしたいが、先ほど知事からあったように5つの安全保障については大変重要な問題意識であると思う。
- ・ 第1は、半導体についてである。米国のIRA (Inflation Reduction Act) やCHIPS法、欧州のグリーンディールや半導体法などを見ても、半導体に対して自国内の投資・産業振興を強力に進めるという動きが、世界的な潮流になっている。日本もそういった意味でこれに対応し始めており、今回のTSMC誘致は非常に意義が深い。国内にとどまらずグローバルな視点で、日本の戦略的不可欠性を有する地位を作っていくための競争方法であり、それが熊本県から始まることの意義は大変重要。
- ・ 第2に、産業集積を進める上で、人材が大変重要であることは論を俟たない。その際に少々気になるのは、熊本県の中で、もしくは九州のおへそという位置付けとして、どれだけ学术界、いわゆるアカデミアのレベルアップができるか。これは理工系の大学院が大変重要であり、その位置付けがどのようになっていくか。人材の集積を進める大いなるチャンスだと思うが、基礎のR&Dや、物理・数学といった分野について、米国に渡って学んできている日本人が増えているのではないか。海外に行くのではなく、いかに海外の理工系学生や研究者たちに来てもらうかという発

想が必要ではないかと思う。沖縄科学技術大学院、通称「OIST」は、開校から10年で、英シュプリンガー・ネイチャーが発表した（大学・研究機関の規模を考慮した正規化指標による）「質の高い論文数ランキング」において世界9位になった。このような研究機関の躍進は、文科省に頼るのみでは難しいと思う。多大なる努力を持って、九州の経済界の方々や九州大学・熊本大学などの大学が結びついて、今回の半導体を中心に、熊本を起点に学术界を大きく発展させなければならないと同時に、そのチャンスがあるように思う。是非とも、多くの有為なる海外の人材を呼び込む仕組みづくりをしていくべき。その結果として、国際的な多様性がある熊本ができ上がってくる。高度人材の確保・育成に取り組む大きなチャンスだととらえていただきたい。半導体は多様な技術の集積。是非ともその技術を九州に広げていく中心になっていただきたい。それが日本の戦略的不可欠性を作るベースとなる。

- ・ 第3の点が、高齢化である。熊本県の高齢化に伴う人口減、とりわけ生産年齢人口、これが、大変減っていると。熊本県が生産年齢人口の大幅な減少が課題である。熊本県が生産年齢人口は、100万人を下回った2017年から2022年までで、約5万5000人減少している。今回を契機に、生産年齢人口をいかに増やしていくかというロードマップをしっかりと作っていく必要があるのではないかと。これは二つの方法があると思う。一つは、先ほど申し上げたように若い方をはじめとした多くの方々に、アカデミアを中心に集まっていただくことである。今回の半導体産業振興により、高専をはじめ、多くのところに若い方が集まる可能性がある。このチャンスをとらえ、生産年齢人口を増やすというKPIをしっかりと設けるべき。
- ・ そしてもう一つが、先ほどから出ているライフサイエンスである。アカデミアとの連携も必要になるが、県内で健康寿命をいかに伸ばすかという目標を立て、その実践事例・モデルケースとして、ライフサイエンスにおけるオープンイノベーションを進めていくべきではないか。多くの規制を取り払って、生産年齢人口を増やすとともに健康寿命を70歳まで引き上げるなどの目標を立てて、これをいかに伸ばさせていくか、例えば2030年・40年・50年までのロードマップを作成しライフサイエンスを実践する仕組みをつくるのが大切。現在の64歳の方々が本当に生産年齢人口における最高齢かということと実態はそうでもないのではないかと。64歳を超えても元気で働くことができ、また熊本県でも大変盛んな農業等の分野でも引き続き従事できるような、いわゆる予防的な技術開発、ライフサイエンス、また農業を始めとしたアグリテック等の分野で、熊本が日本の中心となるべき。繰り返しになるが、そのためには、理工系の大学院・大学との連携が必要不可欠であり、この契機にぜひ取り入れていくべき。
- ・ さらにもう一つの考え方として、これは熊本県に限った話ではないが、これだけ人口が減少しているということは、小中学校・高校の校舎が空いているのではないかと。ここに、海外の若い人材を留学生として受け入れる特区をつくる。そしてその方々が、熊本を愛し、大学・大学院に進み、熊本の文化・日本の文化を理解した上で、日本人になっていただくような新たな取組みもありえるのではないかと。余っている

施設をただ余らせておくのではなく、有効に活用し、有為なる若い人材に来ていただくことで、結果的に生産年齢人口増つなげていくことが必要。

- ・ 最後に、サステナビリティについてお話する。CO₂、Greenhouse Gas (GHG、温室効果ガス)の排出を減らしていくのは当然のことであるが、私が申し上げたいのは水資源である。フード・アグリテックや半導体産業においては、水が豊かであることが必要不可欠であり、ゆえに、熊本の水の豊富さ・良質さが重要。この、自然の恵みである地下水・天然水をいかに持続可能にできるか、継続的な努力が大変重要であり、水源涵養の取組みはさらなる努力を持ってやるべき。住民の方々、県民の方々の了解を十分に得て、持続可能な産業力強化に取り組んでいくことが必要であり、私たちサントリーもやっていきたい。
- ・ また、今般代表幹事に就任した経済同友会でも、熊本経済同友会と一緒に、このプランを推進できたらと思う。

【飯島委員】

- ・ 最初に、海外の事例で、熊本が参考にすべき事例として、事前に配布資料として提供させていただいている。ただ、今回は少しマクロ的な視点でコメントさせていただきたいと思う。
- ・ わが国は少子高齢化による人口減少、エネルギー問題、財政健全化、老朽化する社会インフラなど、数多くの経済・社会的課題に直面しているほか、気候変動問題や経済安全保障、食料安全保障にも向き合う必要があるということは皆さんご指摘の通りである。熊本は九州の中心に位置する物流人流の要衝である。水の都、森の都とも言われて、豊かな自然があり、再生可能エネルギーにも恵まれ、農業、水産、酪農、畜産と豊かで大変おいしい食を生産する力がある枠組みを抱えている経済社会的な課題を解決するための大変ポテンシャルが高い県であると認識している。半導体は産業の米と言われているが、お米を美味しく育てることは、熊本の皆さんが得意とするところであり、TSMC進出を機に、素晴らしい潜在能力を持つ熊本が、産業競争力、国際競争力のあるグローバルな都市へと発展を目指すべく、今回の大構想、大変資料がよくまとまっているという印象を持っている。
- ・ 50年後100年後に向けて、何よりも重要なのは、人を惹きつけることである。TSMC進出により優秀な人材が熊本に集まることは絶好の機会であり、これを最大限活用して、世界からイノベーションを支える高度な知識や技能を持つ人材を熊本に集めて、この地に定着させ、イノベーションを生み出す英知の拠点となるように、半導体集積地生産・研究拠点としての魅力と位置付けの確立を目指すことが必要だと考えている。
- ・ 人が定着するには、幸福感、クオリティオブライフの充実を図ること、渋滞がないなどのインフラが充実し、働きやすく住みやすい、また環境にもやさしいまちであることが、グローバルベースで人を惹きつける要素となると思う。訪れる誰もが熊

本を好きになり、地域の人々で連携しながら共存・共栄していく、人のエコシステムを構築して、若者や外国人に長く定住したいと思えるまちへの発展が実現できるとともに、強靱で安心安全な人の安全保障にも寄与すると思う。

- ・ また熊本は、再生可能エネルギーの大きなポテンシャルを持っていると思う。T S M Cをはじめとして、半導体産業は多くの電力を必要とするが、広大な自然と豊かな水力、日照、風況、地熱に恵まれた立地を生かして、再エネを安価に主力電源化すれば、さらなる産業競争力を高めるとともに、進出企業の企業価値の向上にも繋がってくると思う。
- ・ また 2050 年の熊本県内実質排出量ネットゼロに向けては、県土の約 6 割を占める森林を活用したカーボンクレジットの活用も有効であると思っている。再エネの導入や森林経営などの取り組みによって、CO₂ 排出削減量、吸収量をクレジットとして発行し、Jクレジット創出先進県として、民間企業や自治体などの排出削減、吸収活動を促進して、クレジットを活用した資金循環を促すことで、環境と経済の両立を目指していくべきではないかと考えている。空港地域の脱炭素化の取組みとしては、電気自動車（EV）の普及・活用やデジタルを活用した産業活性化並びに、安全安心なまちづくりも重要である。市内の主要な観光地にEVで訪れた際に受けられる優遇策の拡充、並びにEVの充電スタンド設置場所の周知の取組みに始まり、路線バスのEV化の検討も有効ではないかと考えている。なおグリーン空港に関して、ACI（国際空港評価機関）が空港の脱炭素の認証をしている。レベルIからレベルIV+（フォープラス）まで5段階あり、まだ日本の空港でレベルIV+をとっているところはない。熊本空港が本国初のレベルIV+を取得して、究極のグリーン空港を目指せば、九州の他の空港との差別化に繋がり、世界各地からも視察に訪れるようなグリーン空港として、環境関連の国際会議等の誘致にもつなげることが期待できるのではないかと考えている。
- ・ 農業、創薬、医療、食、ウェルネスなど、熊本がライフサイエンス分野での強みを活かして、自動車関連産業、半導体関連産業に続く第3の柱の創出を目指す、テクノロジーパーク周辺でのUXプロジェクトは、大変時機を得た取組みであると考えている。スタートアップ創出、投資環境、地域内外の連携、市場性、研究開発力、人材などの項目で評価する、ライフサイエンス分野のスタートアップエコシステム都市ランキングでは、シリコンバレー、ニューヨーク、ロンドン、ボストン、北京、テレアビブ、ソウルが上位を占め、日本の都市としては、第12位で東京がランクされ、他の日本の都市はすべてランク外となっている。2030年には、熊本をこのランキングに入れ込み、世界最先端のライフサイエンスエコノミー社会の実現を目指すべく、国内外から人材、投資を呼び込み、産業界、大学、自治体の参画を得て、ライフサイエンスエコノミー形成戦略を推進していくことも、重要なことだと思っている。

【木村副知事】

- ・ 各委員からすばらしいご意見を多々承った。これを踏まえて、具体的中身に落とし込んで、またご相談したいと思う。知事から全体総括として意見をいただきたいと思うが、新浪委員の方から人材育成、アカデミアについてのご心配をいただいたので、その点だけ現状を報告させていただく。
- ・ 熊本大学は今劇的に変わりつつある。新浪委員おっしゃったように、文科省の指導に従っているのではなく、むしろ大学が主体となって、しかも地域の企業から人を呼び込んで、そして、東京大学とか、産総研などと連携して、半導体の事実上の学部を新しく作るという、創業以来初の試みを今年度決断された。熊本大学、九州大学、またその他、九州内の高専等と連携して、様々な人材育成プログラムを組んで、九州内でまずどんどん人が回り、そしてまた、九州外、そして海外からも受け入れる体制、熊本海外からの受け入れはまだまだ経験がないが、そうしたマインドチェンジを熊本大学中心にしっかりやっているのです、今後にご期待いただければと思う。

【永野委員】

- ・ 本日の 50 ページ以上にわたる資料は縦割りになっている。ぜひ、こんどの提言では、縦割りを無くしてわかりやすいようにまとめていただく必要があるのではないか。いろいろなプロジェクトが縦割りで出てきているのをやめて、新しい観点に立って 21 世紀の産業革命を起こすためにどうしても必要な半導体のまちづくり、「半導体城下街づくり」をぜひ目指していただきたいと思う。
- ・ 住民の方にも、或いは九州全体の方が、日本全体或いは世界全体の方が、熊本が取り組んでいることがわかりやすいように「見える化」した形でまとめていただきたい。

【飯島委員】

- ・ ありがとうございます。まだまだご意見がいろいろあると思いますけれども、大変申し訳ないが、時間の都合もあり、意見交換はこの辺で終了させていただきたい。本日のご意見を取りまとめ、8 月頃に再度有識者会議を開催し、最終的に熊本県への提言として提出したいと思います。それでは蒲島知事から総括をお願いします。

6 総括【蒲島知事】

- ・ 長時間にわたり皆様にはご意見をいただいた。そして、とても素晴らしい議論が展開された。私がまとめるつもりであったが、時間的な都合があり、これを議事録として皆さんにお送りする。

- ・ 今回の有識者会議を開催して、熊本県のさらなる発展、また空港周辺の地域をどうするかという点について、永野委員からは半導体城下町をというお話であったが、そういう意味では、空港の機能だけではなくて、空港を核とした地方創生というか、まちづくりというのが大事な我々の役割じゃないかなと思っている。
- ・ 空港周辺のまちづくりを含めた大空港構想をさらに進めて、そして皆さんからお話があったように、シリコンアイランド九州、それを目指していくことが、日本全体の安全保障に繋がるのではないかという、そういう議論をいただいた。
- ・ 皆さんの議論を提言として取りまとめさせていただき、空港や半導体産業の集積を生かしたまちづくりが大事だと、私も台湾を視察して、シリコンアイランドというか、サイエンスパーク的なもの、熊本はその可能性があると思うので、皆様には 8 月頃にもう一度お集まりいただき、今日の提言を取りまとめたものを今度事務局の方できちんと用意するので、それを見ていただいて、もう一度議論をしていただければ大変嬉しく思う。今日は長時間にわたりご議論いただき、誠にありがとうございました。